



FINESIA®

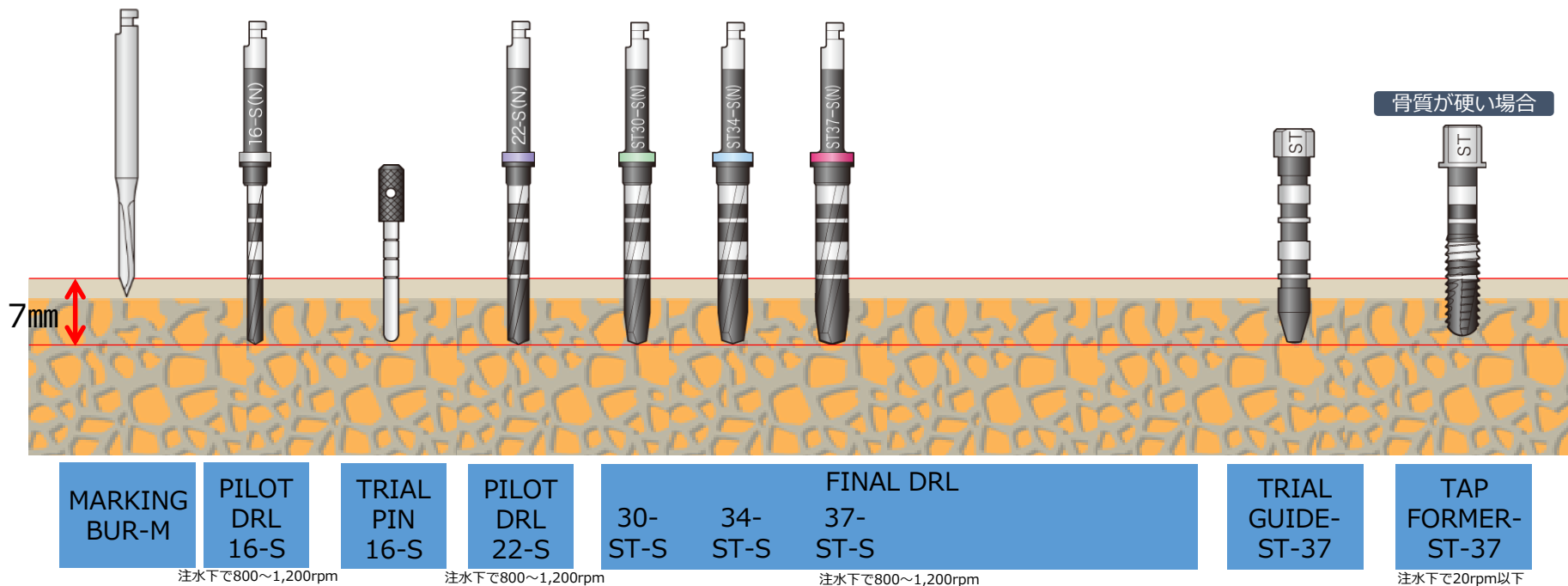
術式チャート

ストレートタイプ(ST)
ストッパーなし

埋入径
φ3.7

骨内長
6mm

形状
ST

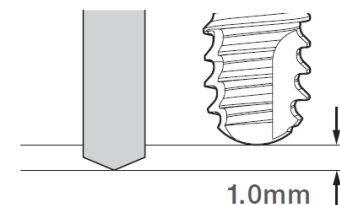


- ・誤飲防止のため、縫合糸を孔に通してください。
- ・TAP FORMER-STは、形成窩に対して垂直になるように使用してください。
- ・タップ形成の際、骨質が硬い場合は2~3回戻し、再度タップ形成を行ってください。

注意

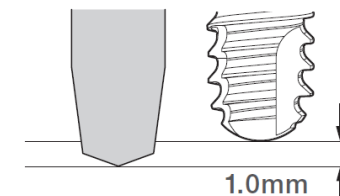
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

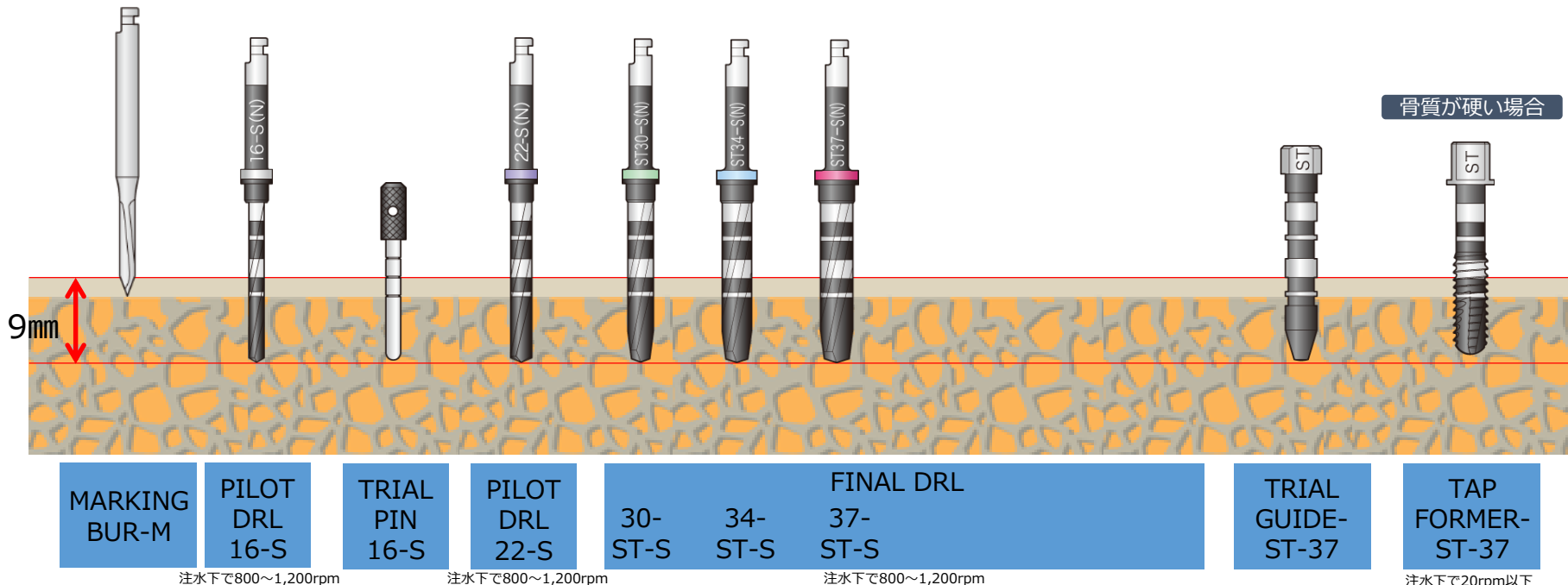


5. 骨質が硬い場合は、タップフォーマーを使用してください。

埋入径
 $\phi 3.7$

骨内長
8 mm

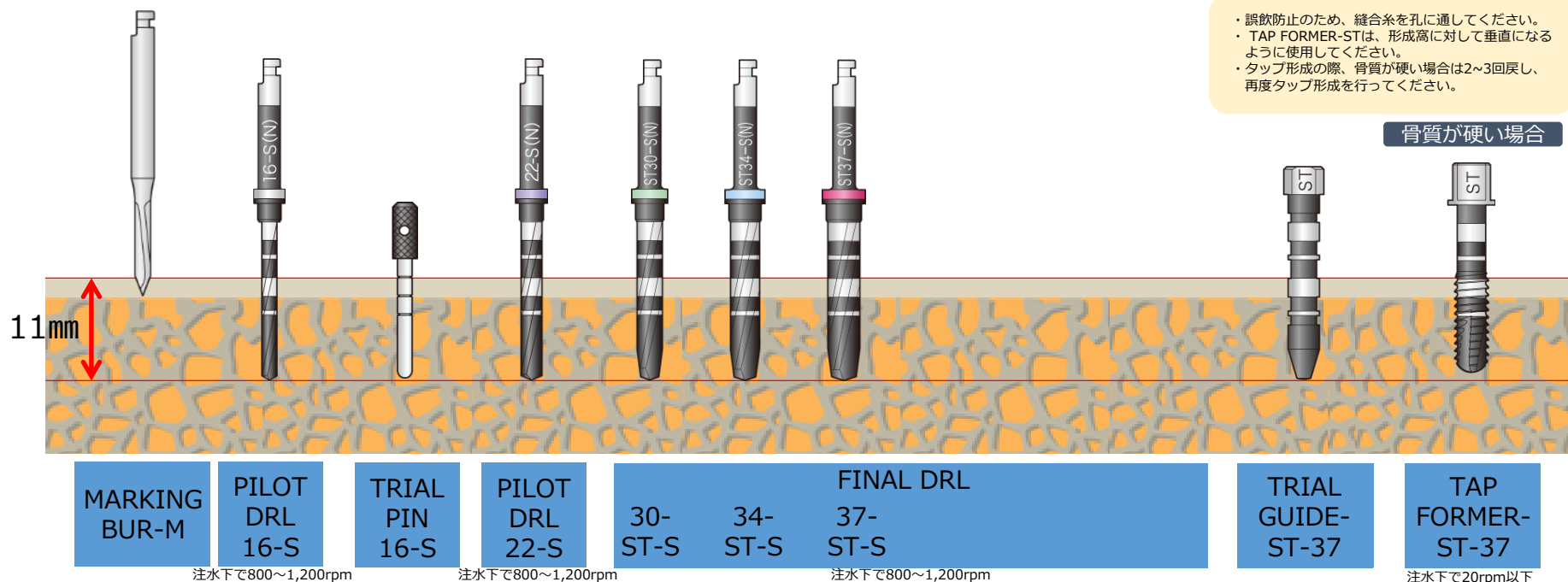
形状
ST



埋入径
 $\phi 3.7$

骨内長
10mm

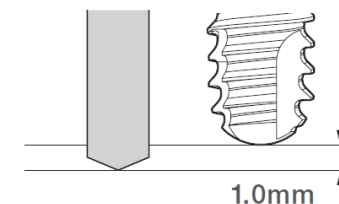
形状
ST



注意

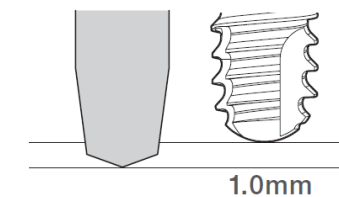
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩洞形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



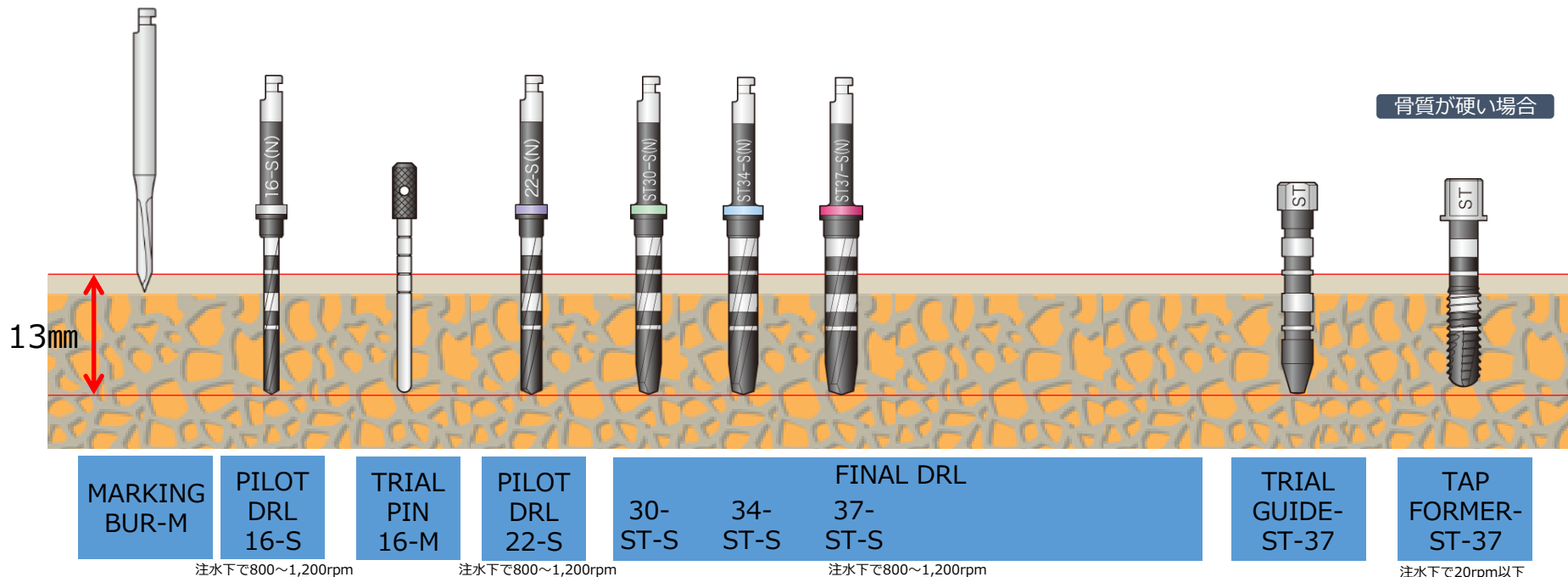
5. 骨質が硬い場合は、タップフォーマーを使用してください。

- ・誤飲防止のため、縫合糸を孔に通してください。
- ・TAP FORMER-STは、形成窩に対して垂直になるように使用してください。
- ・タップ形成の際、骨質が硬い場合は2~3回戻し、再度タップ形成を行ってください。

埋入径
 $\phi 3.7$

骨内長
12mm

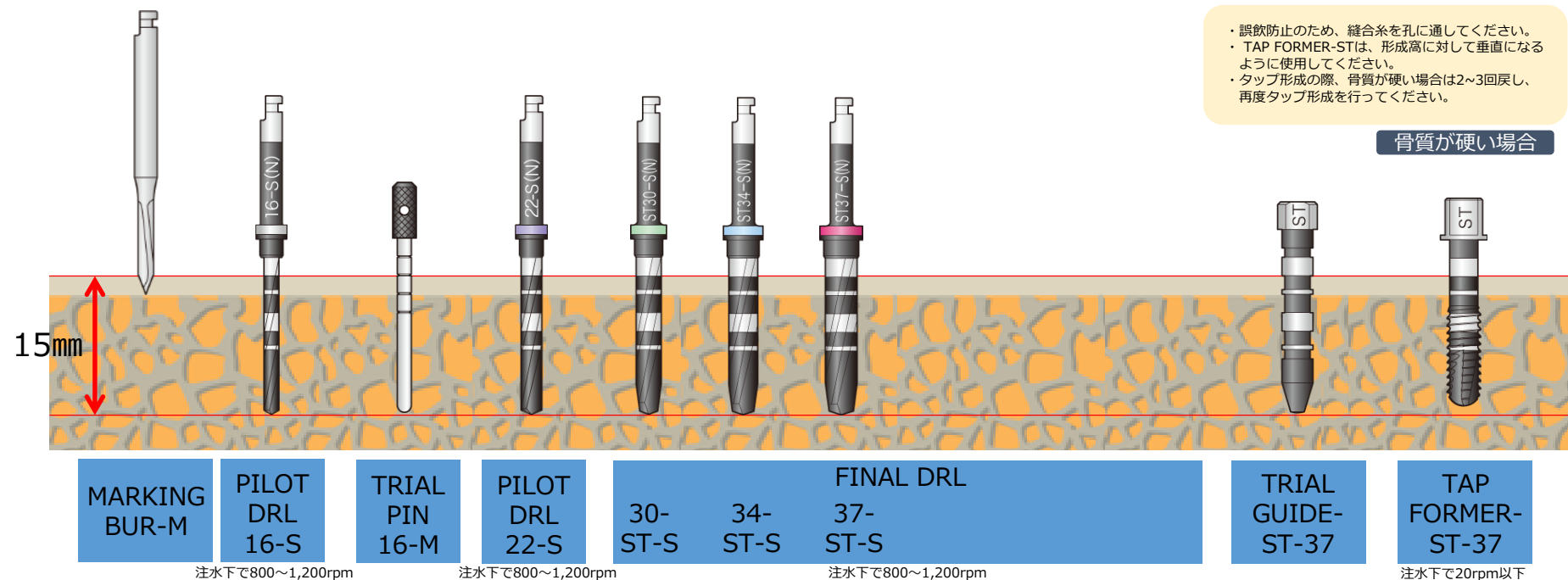
形状
ST



埋入径
 $\phi 3.7$

骨内長
14mm

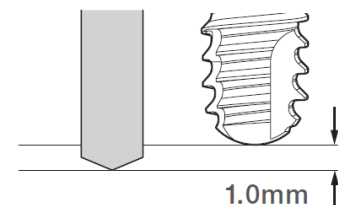
形状
ST



注意

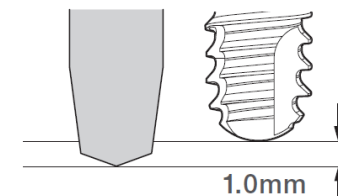
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩洞形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

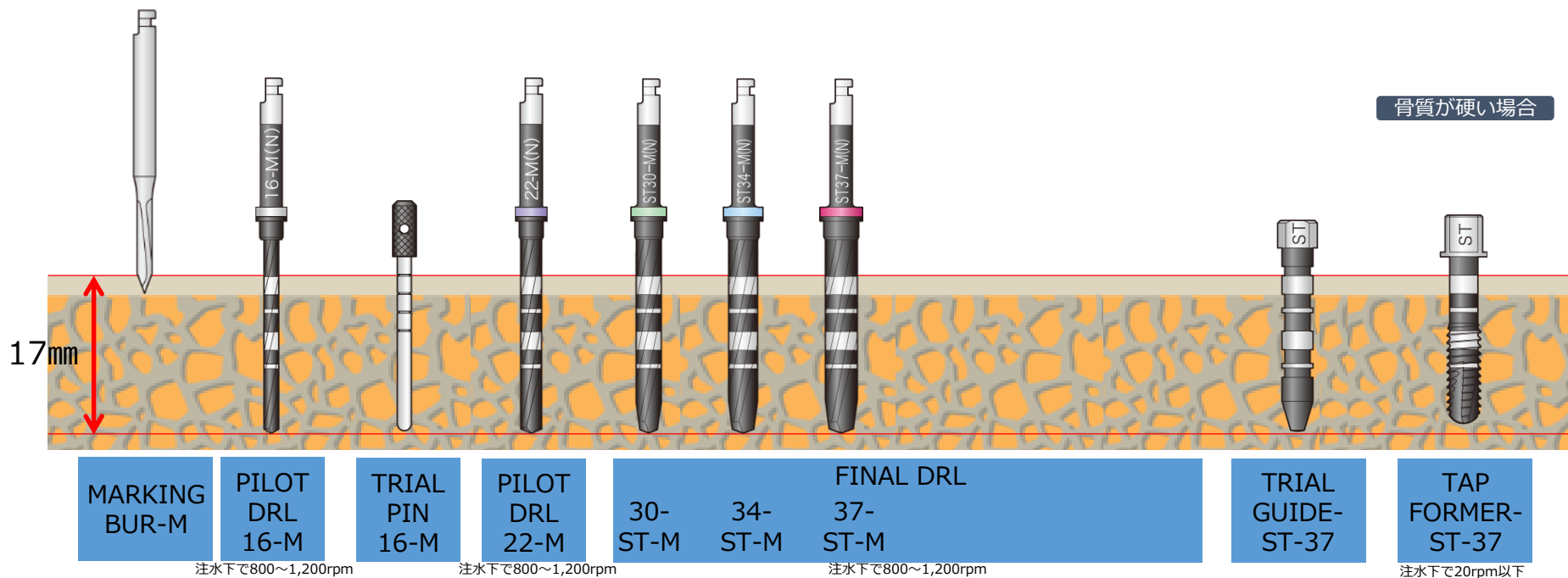


5. 骨質が硬い場合は、タップフォーマーを使用してください。

埋入径
φ3.7

骨内長
16mm

形状
ST



注水下で800~1,200rpm

注水下で800~1,200rpm

注水下で800~1,200rpm

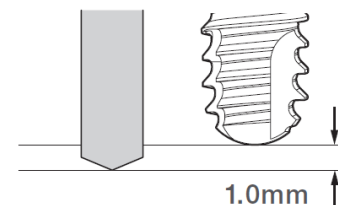
注水下で20rpm以下

- ・誤飲防止のため、縫合糸を孔に通してください。
- ・TAP FORMER-STは、形成窩に対して垂直になるように使用してください。
- ・タップ形成の際、骨質が硬い場合は2~3回戻し、再度タップ形成を行ってください。

注意

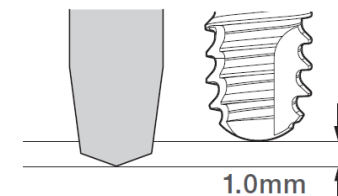
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

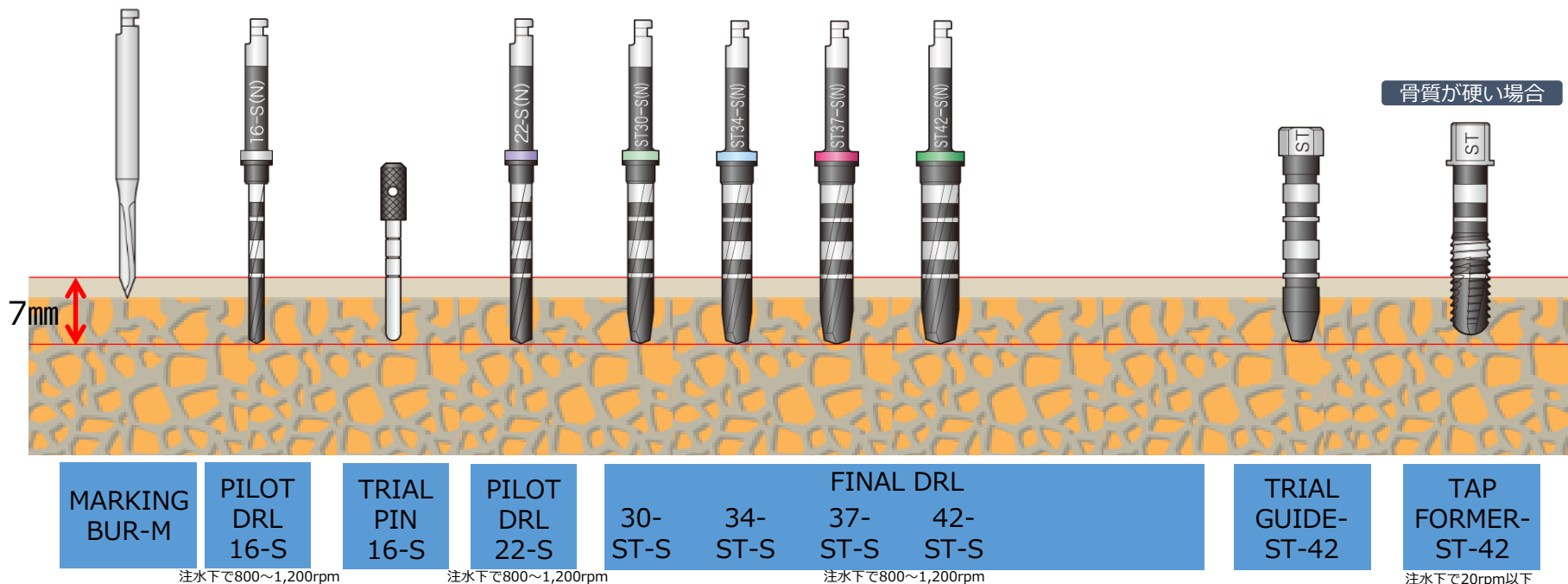


5. 骨質が硬い場合は、タップフォーマーを使用してください。

埋入径
φ4.2

骨内長
6mm

形状
ST

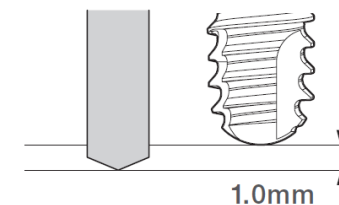


- ・誤飲防止のため、縫合糸を孔に通してください。
- ・TAP FORMER-STは、形成窩に対して垂直になるように使用してください。
- ・タップ形成の際、骨質が硬い場合は2~3回戻し、再度タップ形成を行ってください。

注意

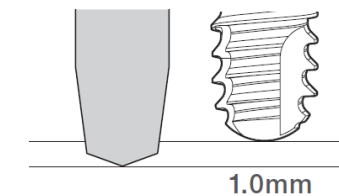
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

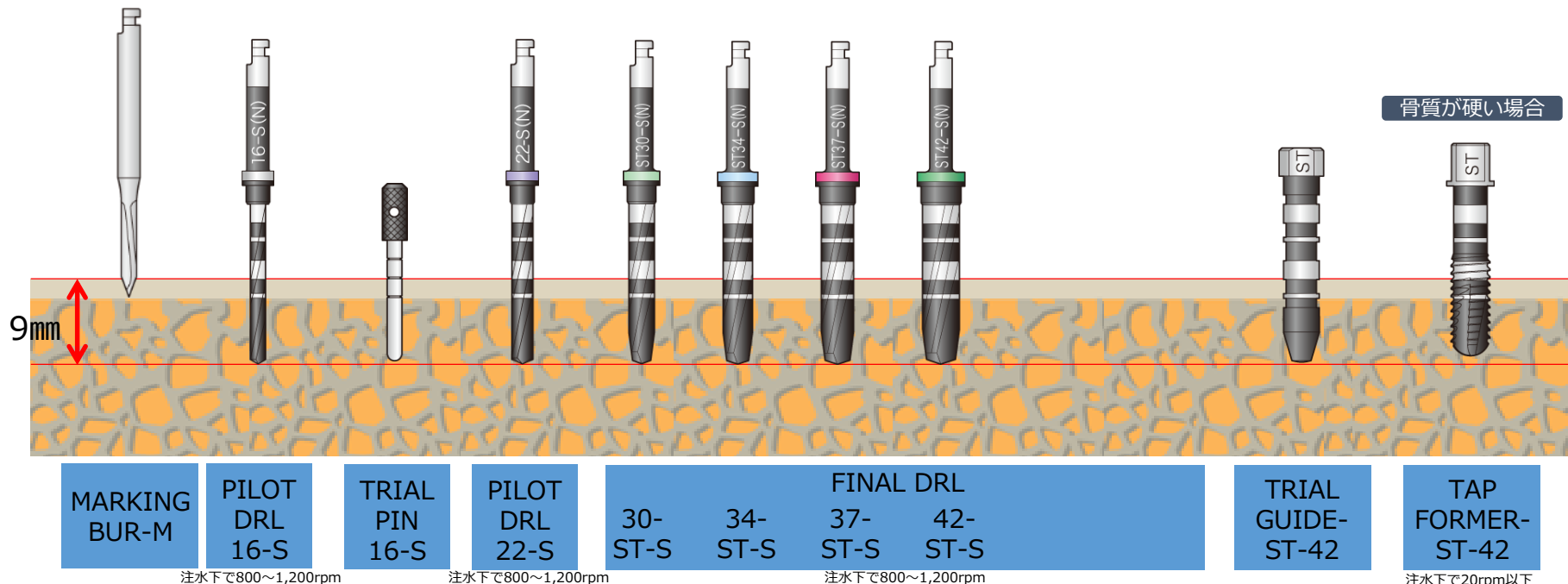


5. 骨質が硬い場合は、タップフォーマーを使用してください。

埋入径
 $\phi 4.2$

骨内長
8 mm

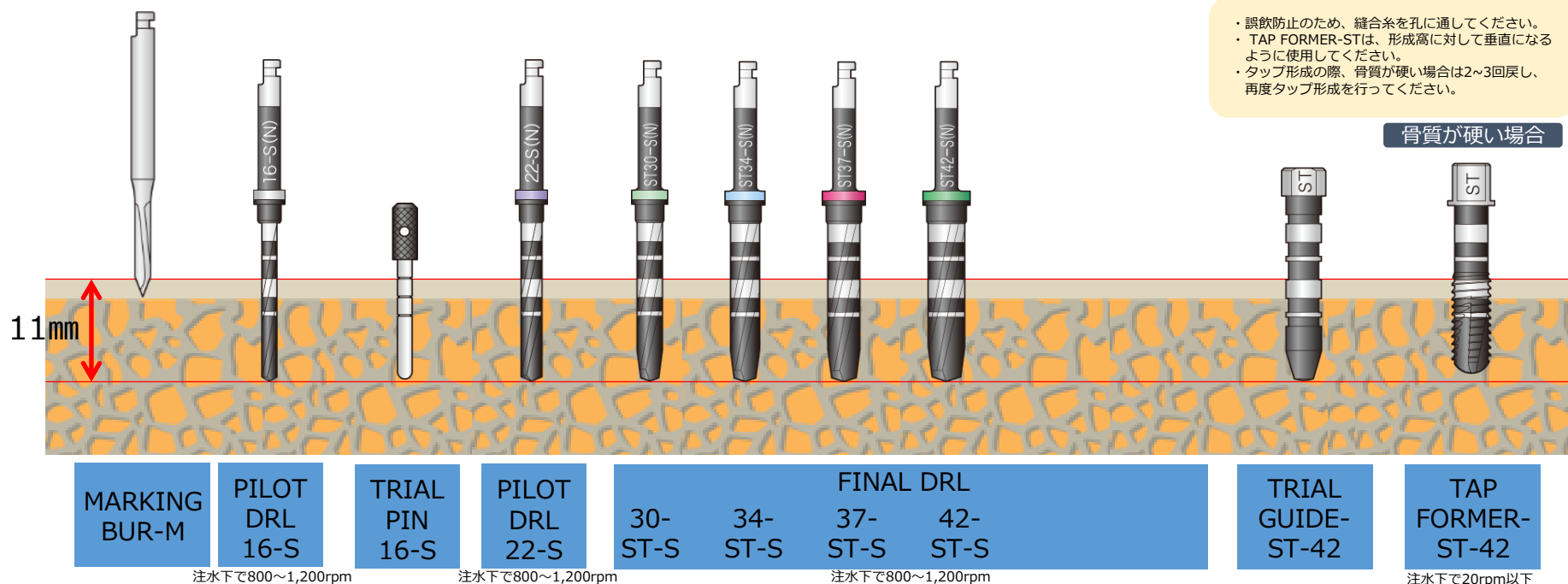
形状
ST



埋入径
 $\phi 4.2$

骨内長
10mm

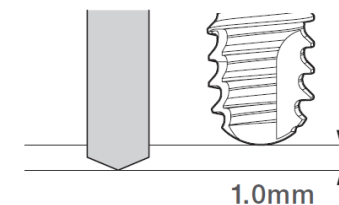
形状
ST



注意

1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩洞形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

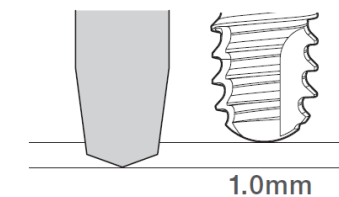


3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

- ・誤飲防止のため、縫合糸を孔に通してください。
- ・TAP FORMER-STは、形成窩に対して垂直になるように使用してください。
- ・タップ形成の際、骨質が硬い場合は2~3回戻し、再度タップ形成を行ってください。

骨質が硬い場合

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

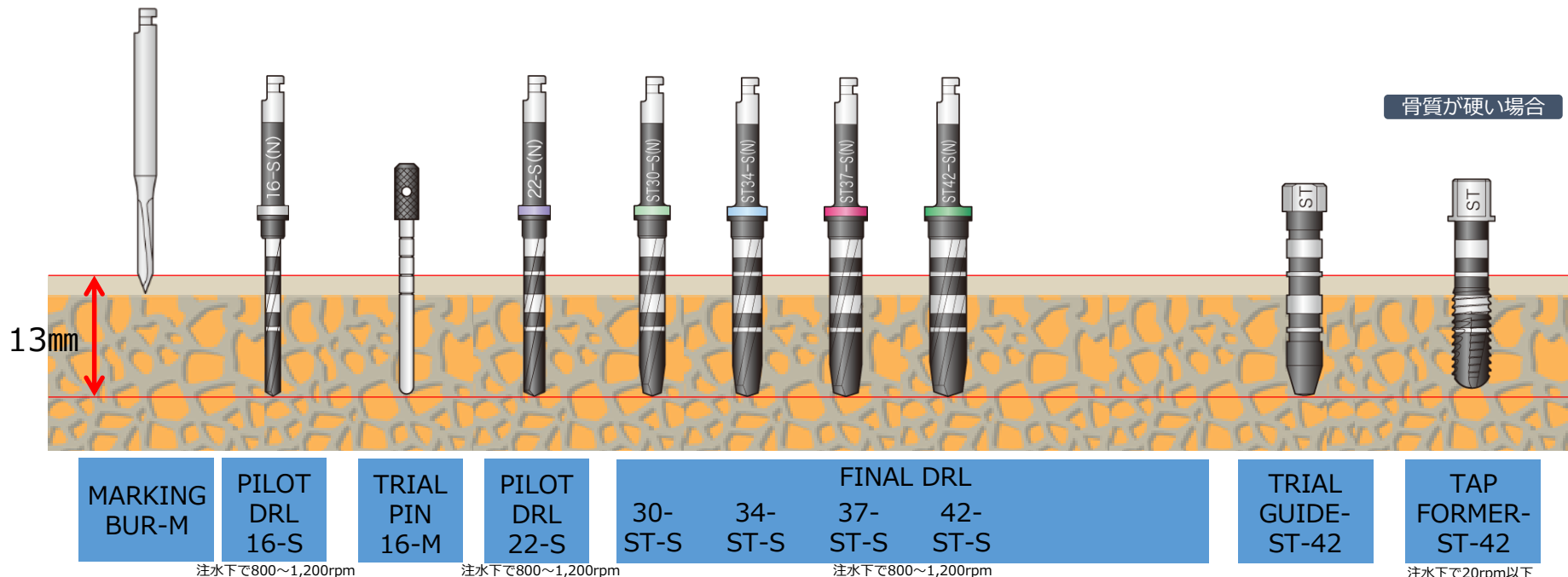


5. 骨質が硬い場合は、タップフォーマーを使用してください。

埋入径
φ4.2

骨内長
12mm

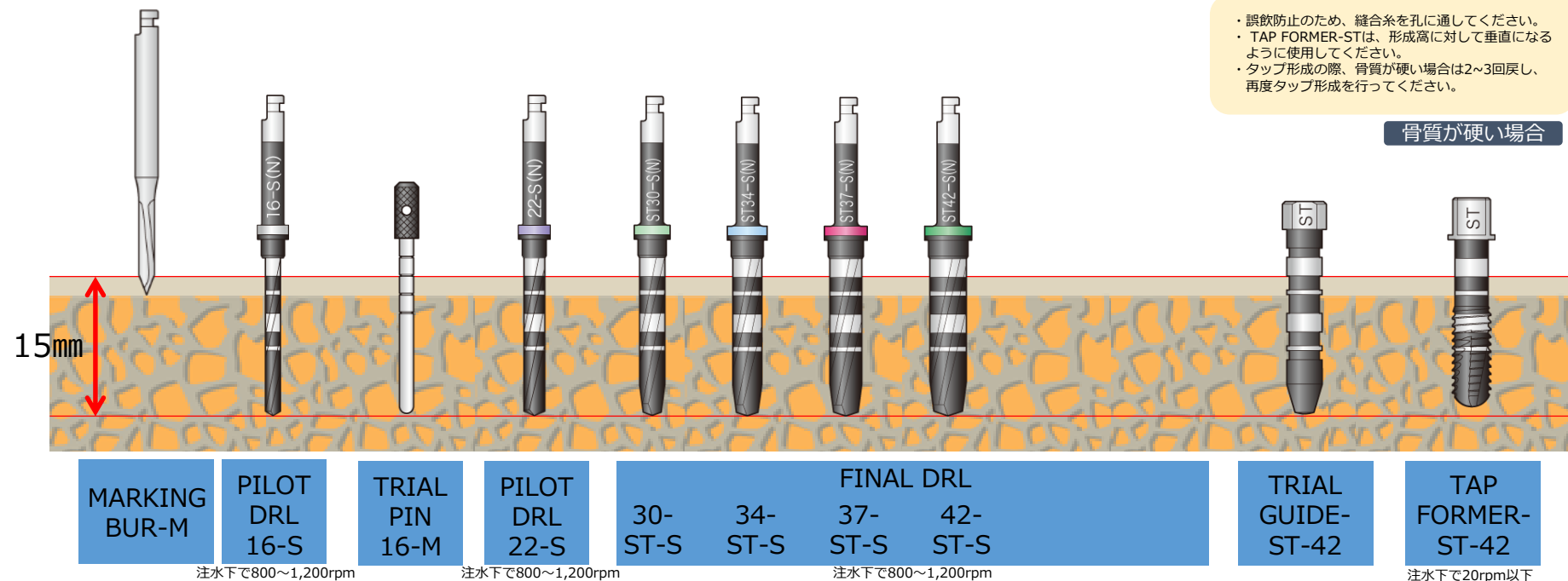
形状
ST



埋入径
φ4.2

骨内長
14mm

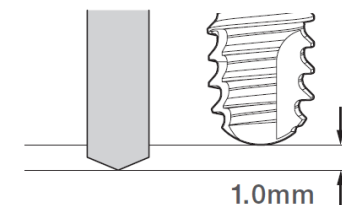
形状
ST



注意

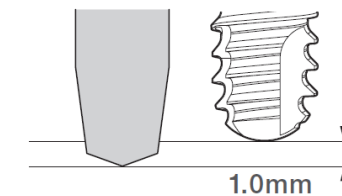
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩洞形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

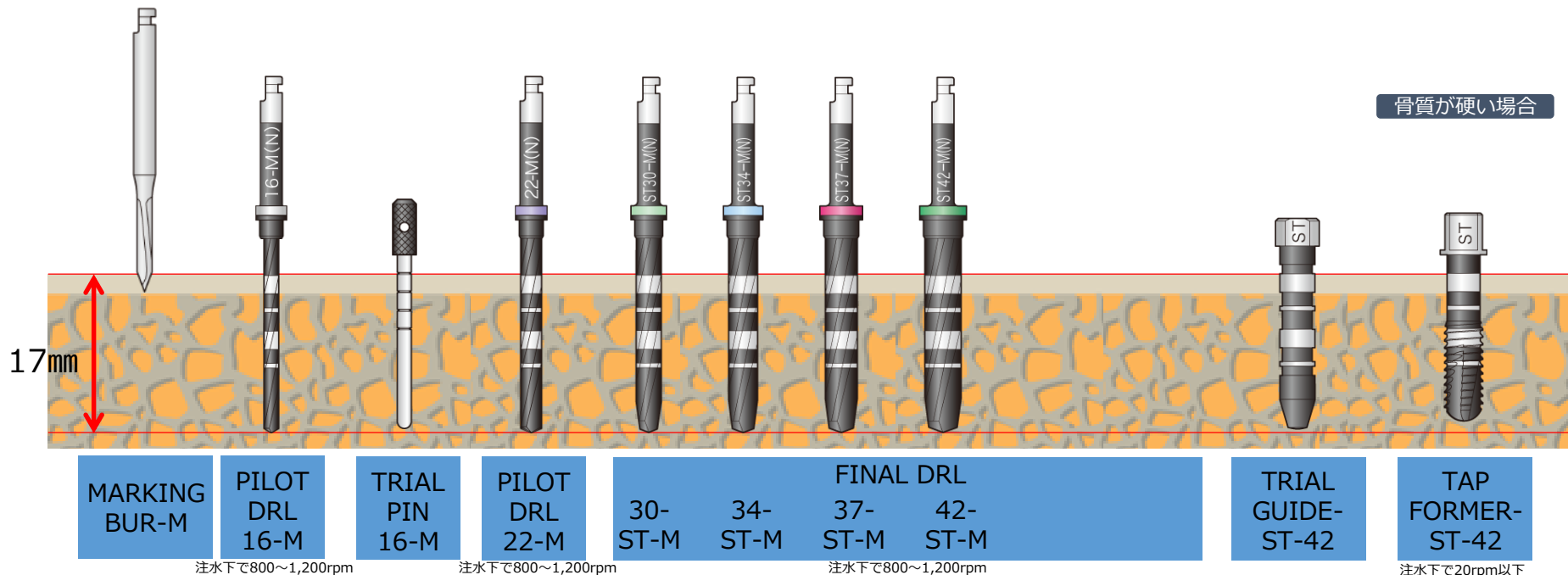


5. 骨質が硬い場合は、タップフォーマーを使用してください。

埋入径
 $\phi 4.2$

骨内長
16mm

形状
ST

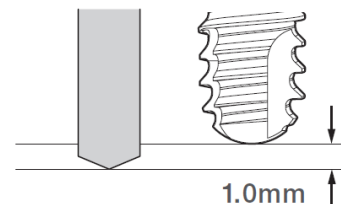


- ・誤飲防止のため、縫合糸を孔に通してください。
- ・TAP FORMER-STは、形成窩に対して垂直になるように使用してください。
- ・タップ形成の際、骨質が硬い場合は2~3回戻し、再度タップ形成を行ってください。

注意

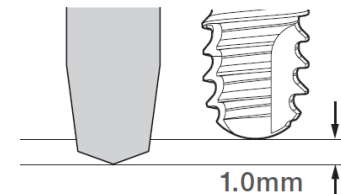
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩洞形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

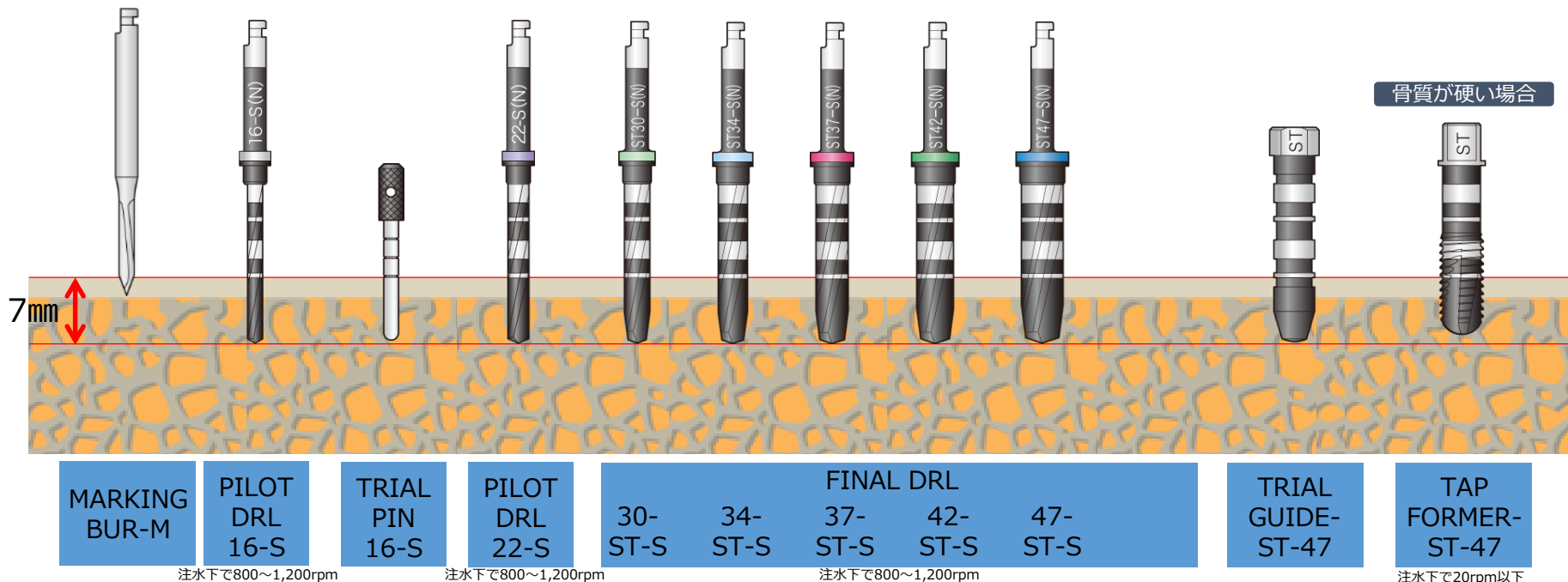


5. 骨質が硬い場合は、タップフォーマーを使用してください。

埋入径
φ4.7

骨内長
6mm

形状
ST

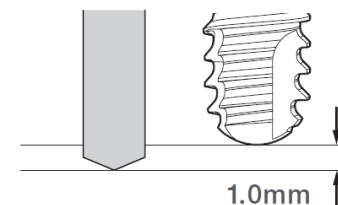


- ・誤飲防止のため、縫合糸を孔に通してください。
- ・TAP FORMER-STは、形成窩に対して垂直になるように使用してください。
- ・タップ形成の際、骨質が硬い場合は2~3回戻し、再度タップ形成を行ってください。

注意

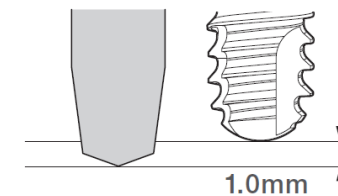
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

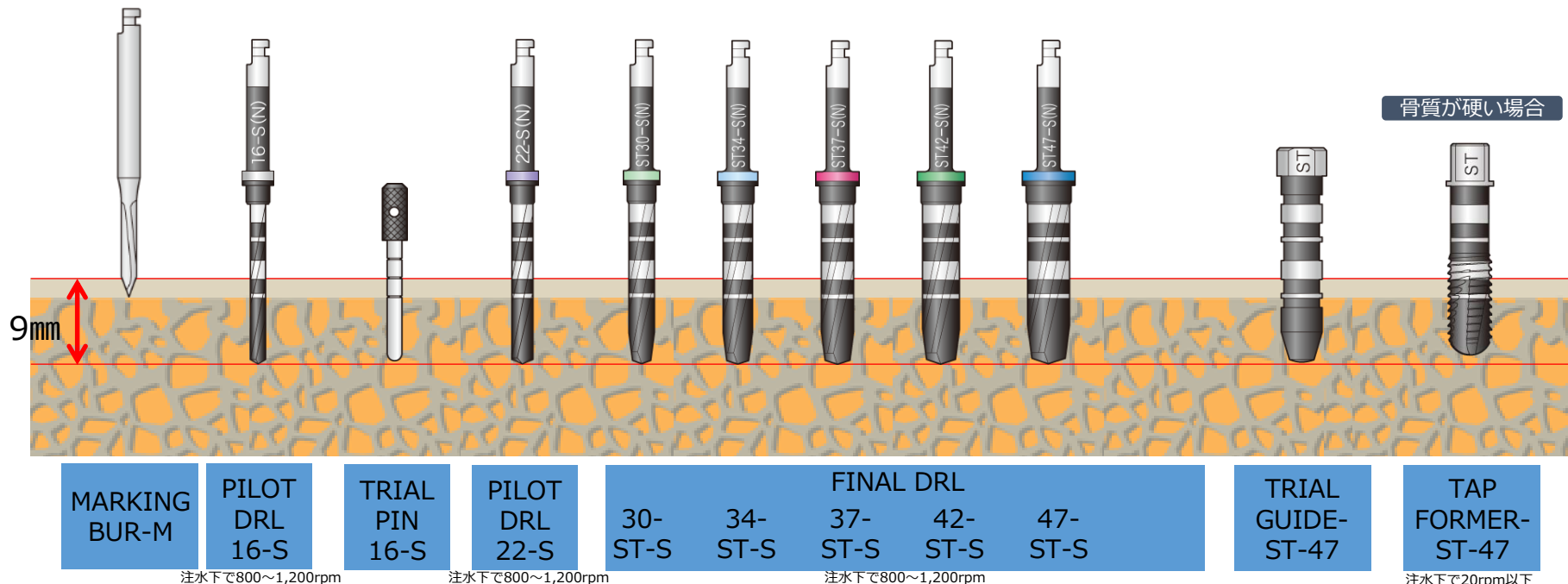


5. 骨質が硬い場合は、タップフォーマーを使用してください。

埋入径
φ4.7

骨内長
8 mm

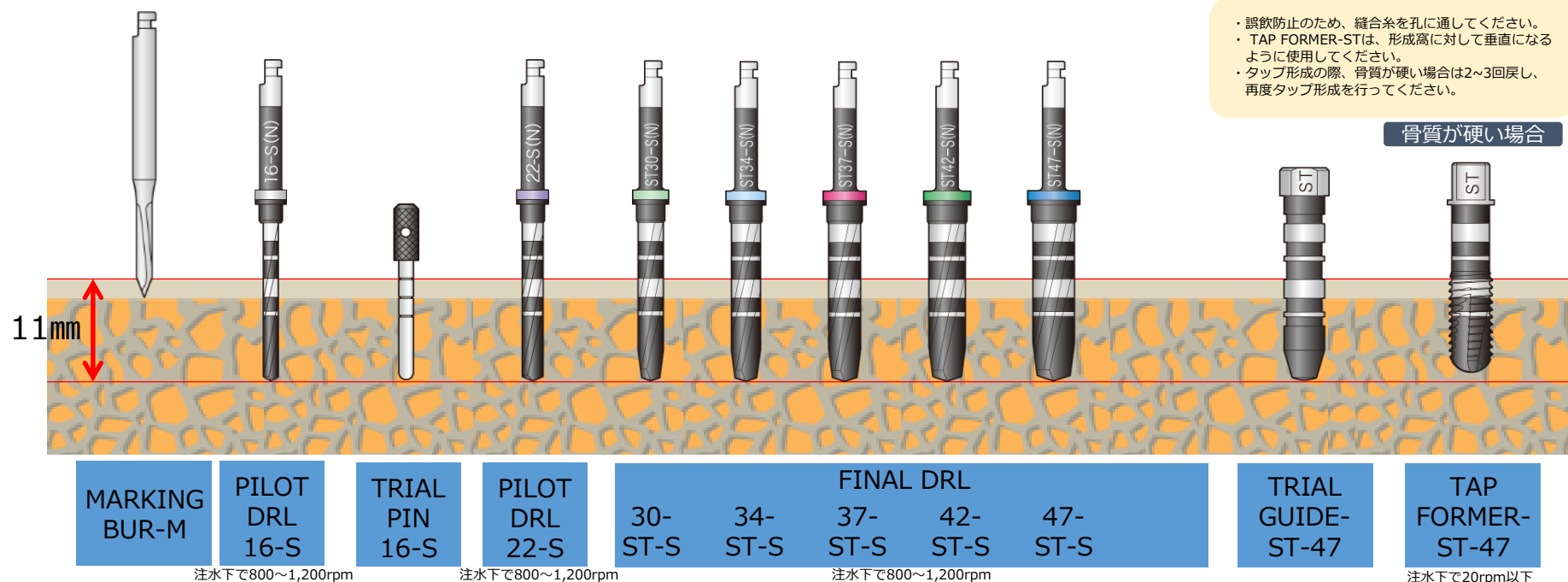
形状
ST



埋入径
φ4.7

骨内長
10mm

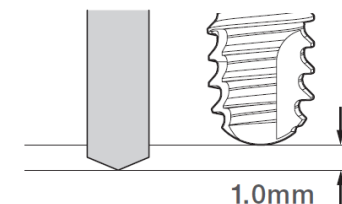
形状
ST



注意

1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩洞形成の原因になりますので使用しないでください。

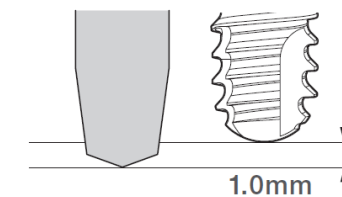
2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

- ・誤飲防止のため、縫合糸を孔に通してください。
- ・TAP FORMER-STは、形成窩に対して垂直になるように使用してください。
- ・タップ形成の際、骨質が硬い場合は2~3回戻し、再度タップ形成を行ってください。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

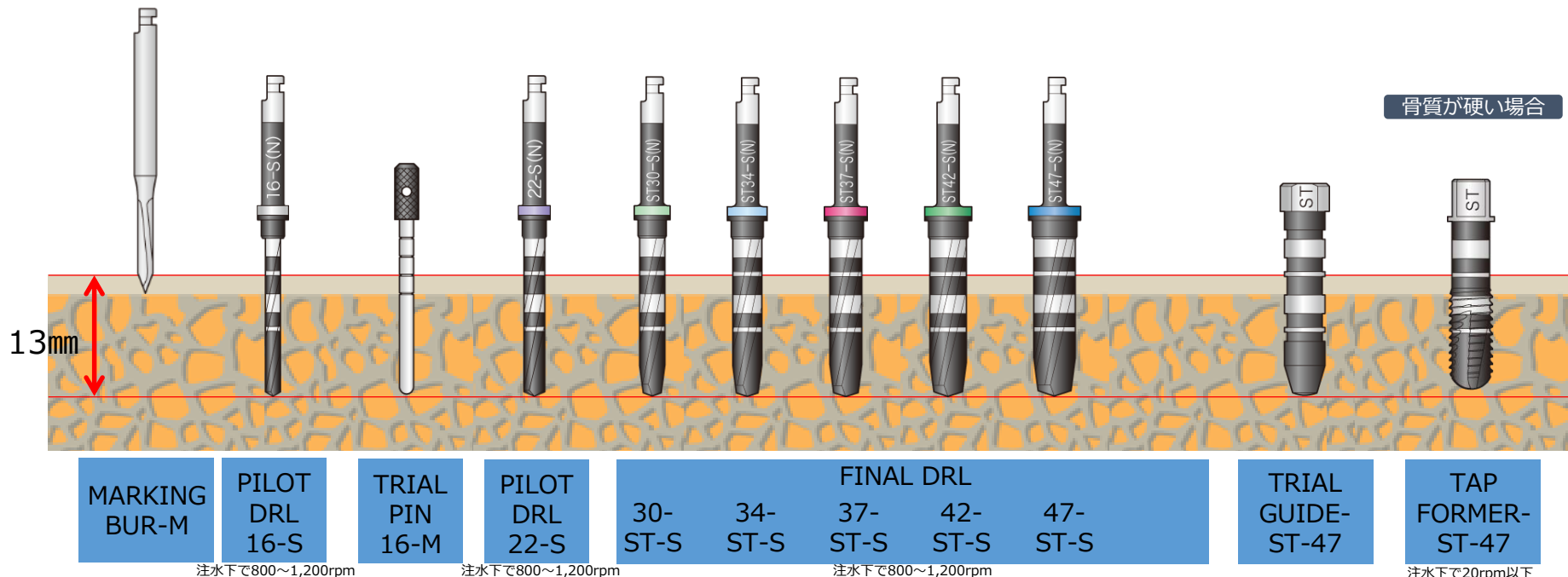


5. 骨質が硬い場合は、タップフォーマーを使用してください。

埋入径
φ4.7

骨内長
12mm

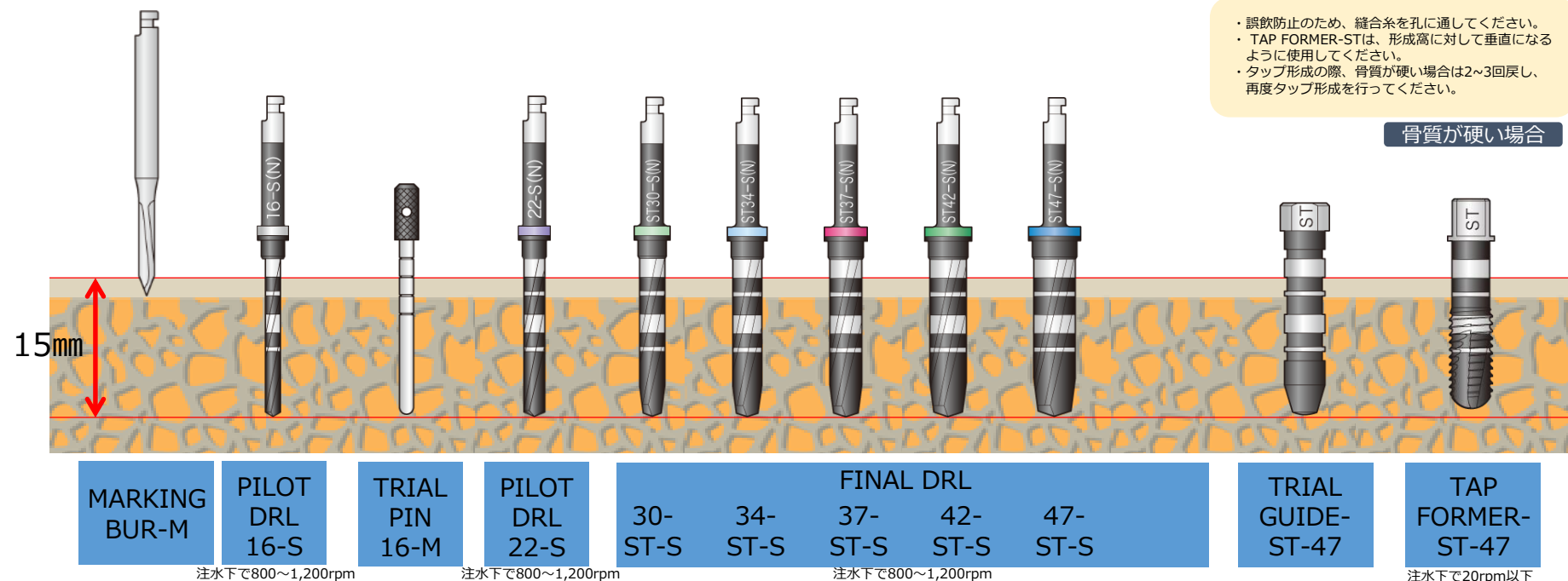
形状
ST



埋入径
φ4.7

骨内長
14mm

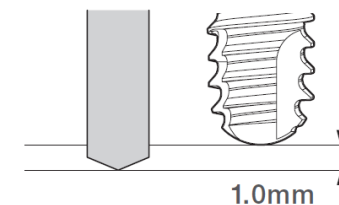
形状
ST



注意

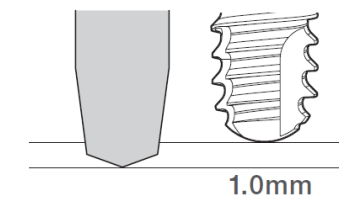
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩洞形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

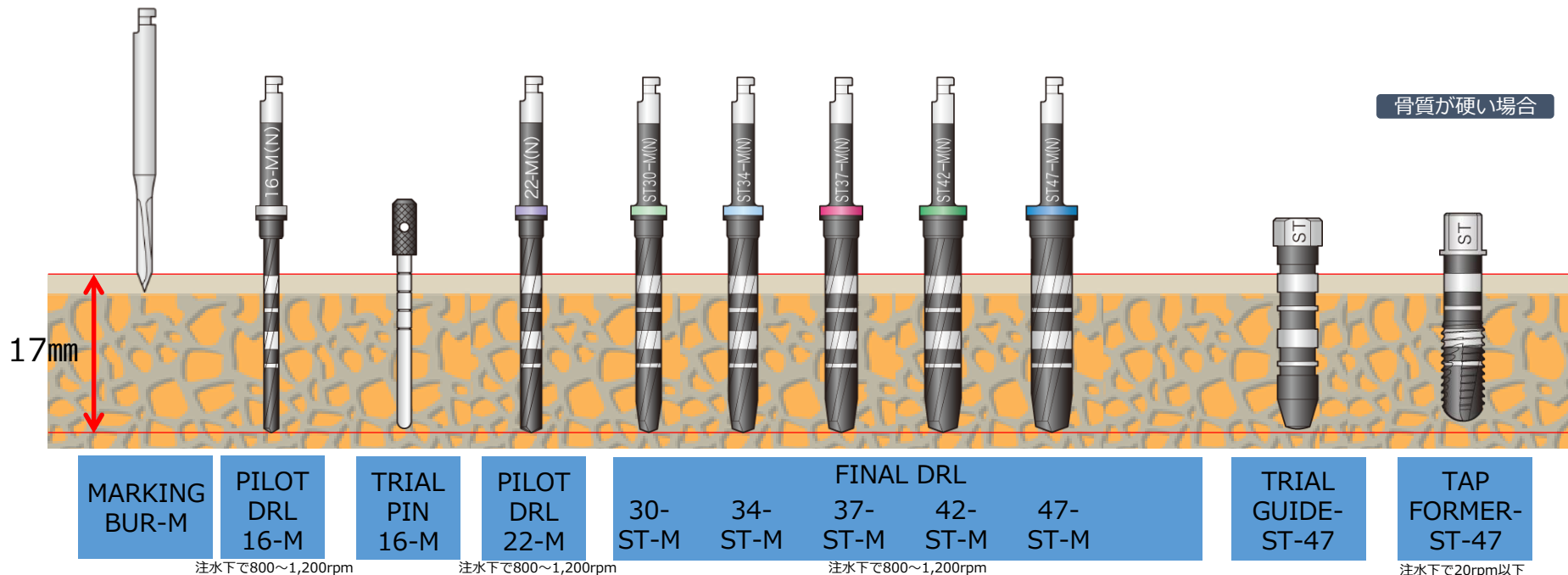


5. 骨質が硬い場合は、タップフォーマーを使用してください。

埋入径
φ4.7

骨内長
16mm

形状
ST

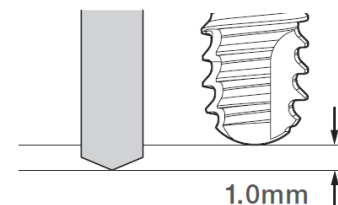


- ・誤飲防止のため、縫合糸を孔に通してください。
- ・TAP FORMER-STは、形成窩に対して垂直になるように使用してください。
- ・タップ形成の際、骨質が硬い場合は2~3回戻し、再度タップ形成を行ってください。

注意

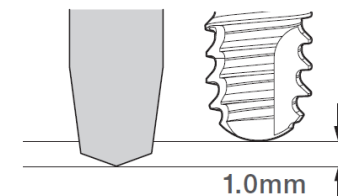
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

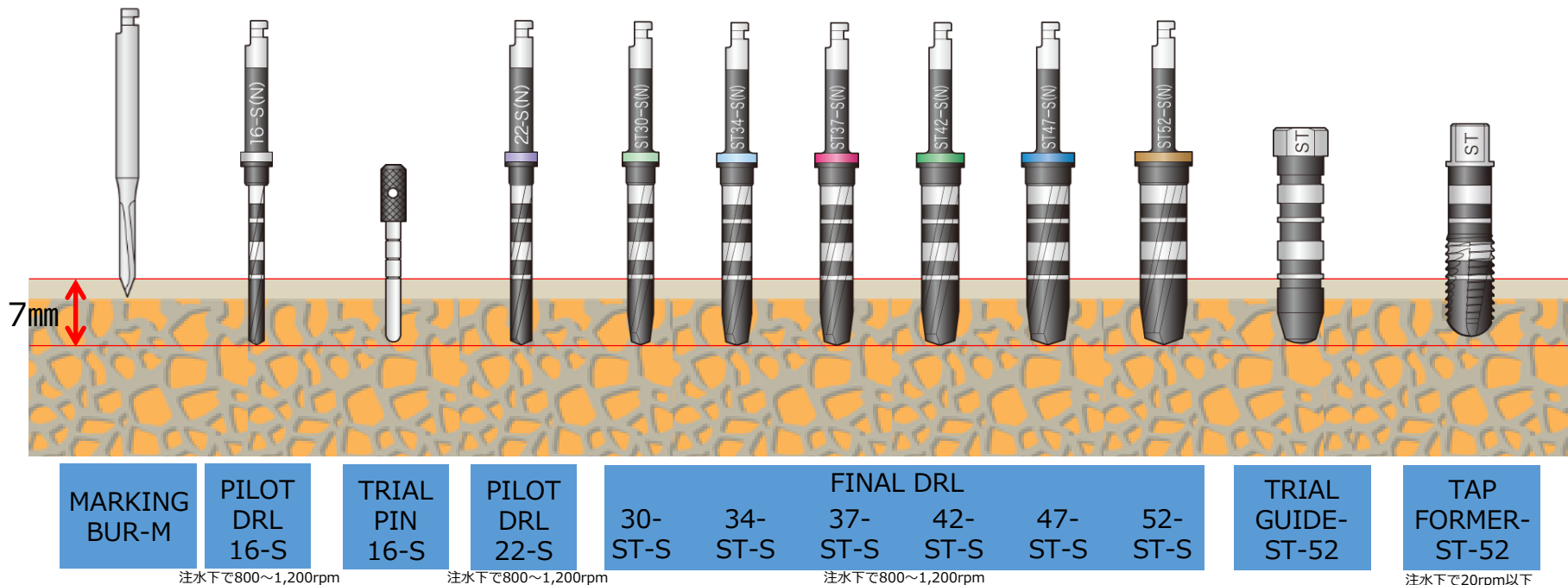


5. 骨質が硬い場合は、タップフォーマーを使用してください。

埋入径
 $\phi 5.2$

骨内長
6mm

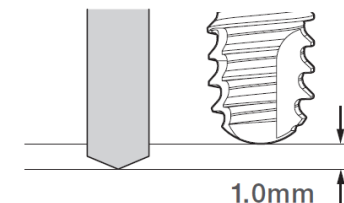
形状
ST



注意

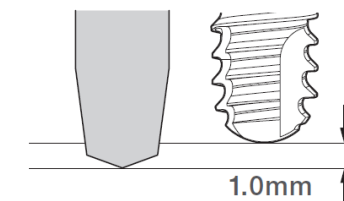
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩洞形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

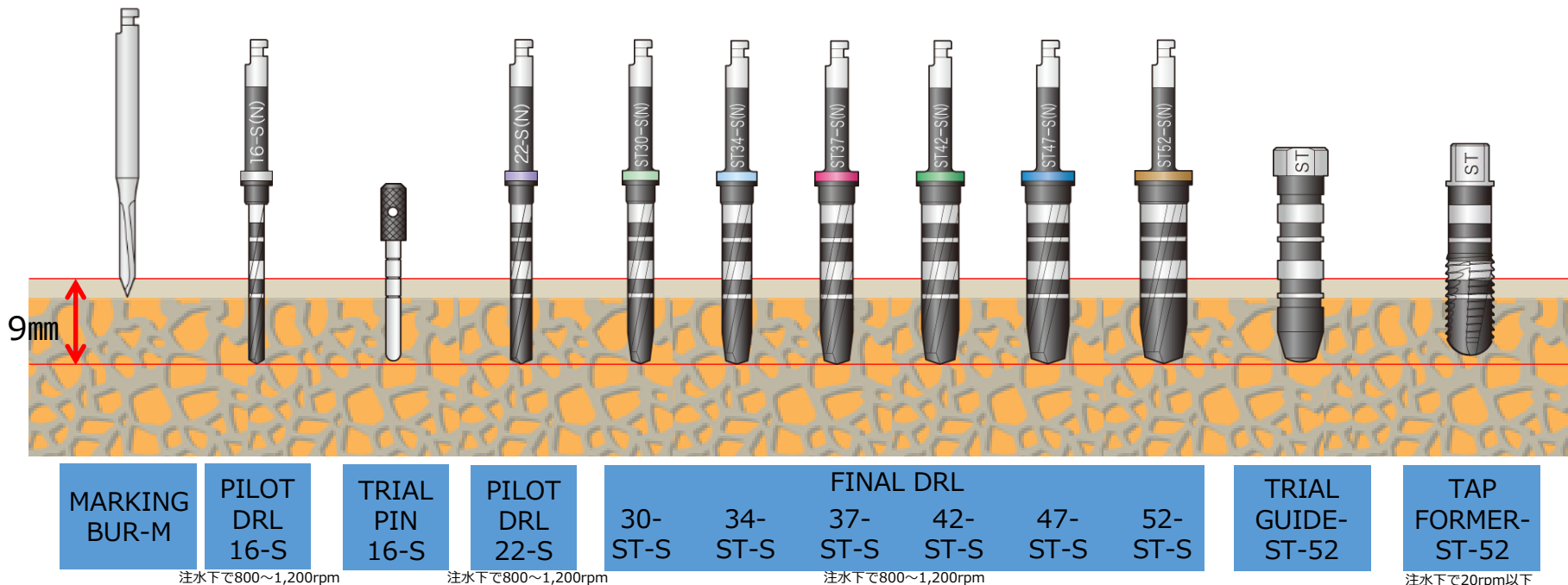


5. 直径5.2mmのインプラント体埋入時は、通常の骨質でも必ずタップフォーマーを使用してください。

埋入径
φ5.2

骨内長
8 mm

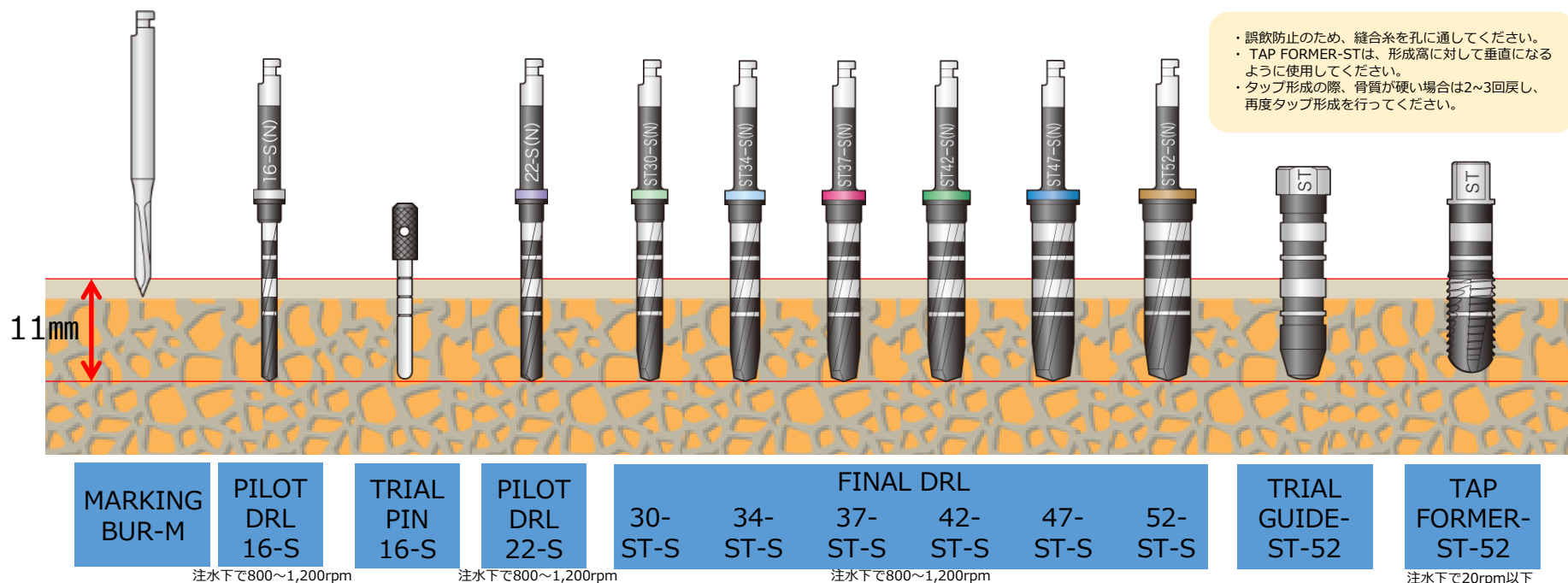
形状
ST



埋入径
φ5.2

骨内長
10mm

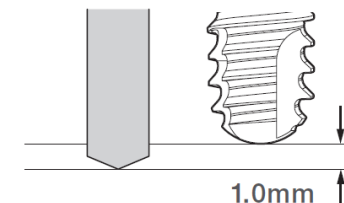
形状
ST



注意

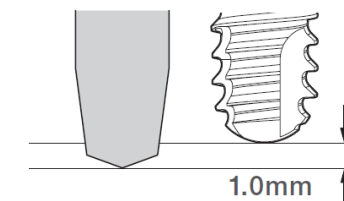
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩洞形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

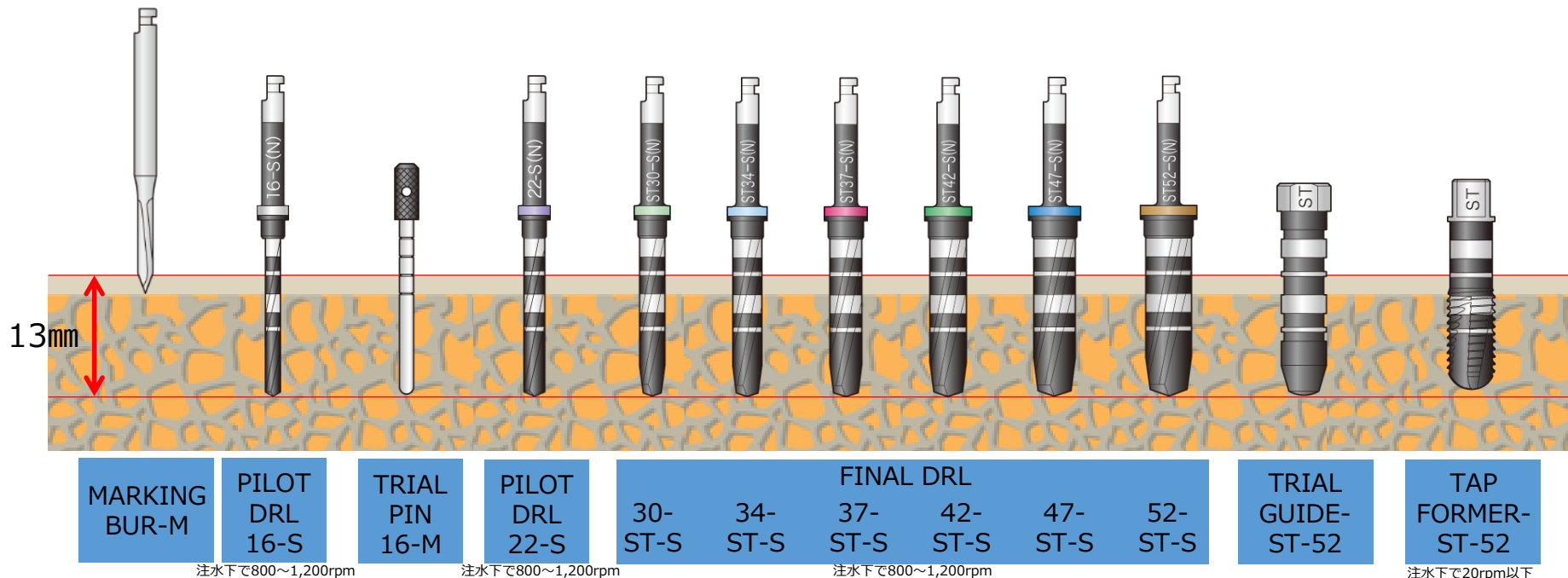


5. 直径5.2mmのインプラント体埋入時は、通常の骨質でも必ずタップフォーマーを使用してください。

埋入径
φ5.2

骨内長
12mm

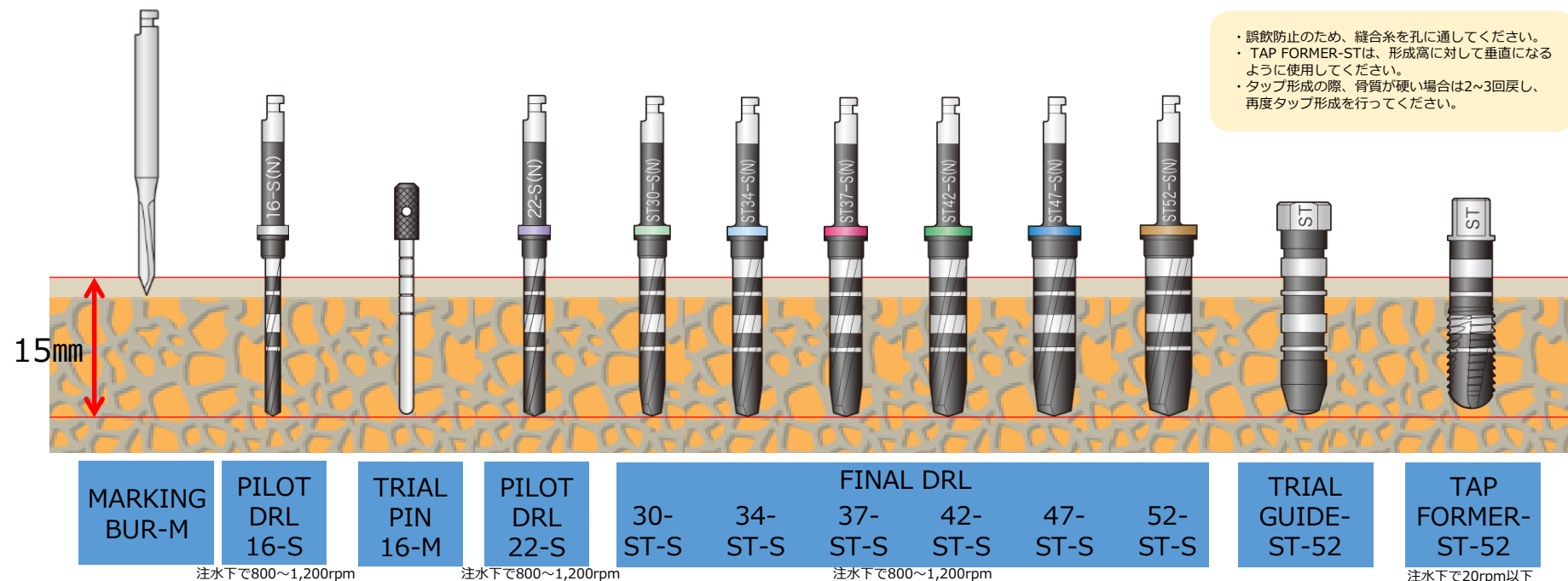
形状
ST



埋入径
φ5.2

骨内長
14mm

形状
ST

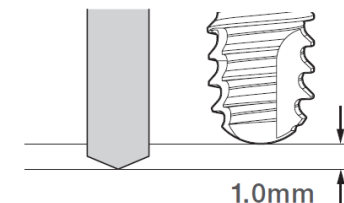


- ・誤飲防止のため、縫合糸を孔に通してください。
- ・TAP FORMER-STは、形成窩に対して垂直になるように使用してください。
- ・タップ形成の際、骨質が硬い場合は2~3回戻し、再度タップ形成を行ってください。

注意

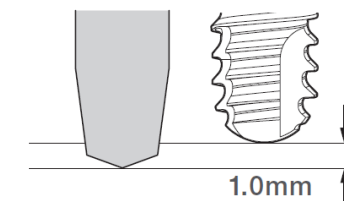
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。

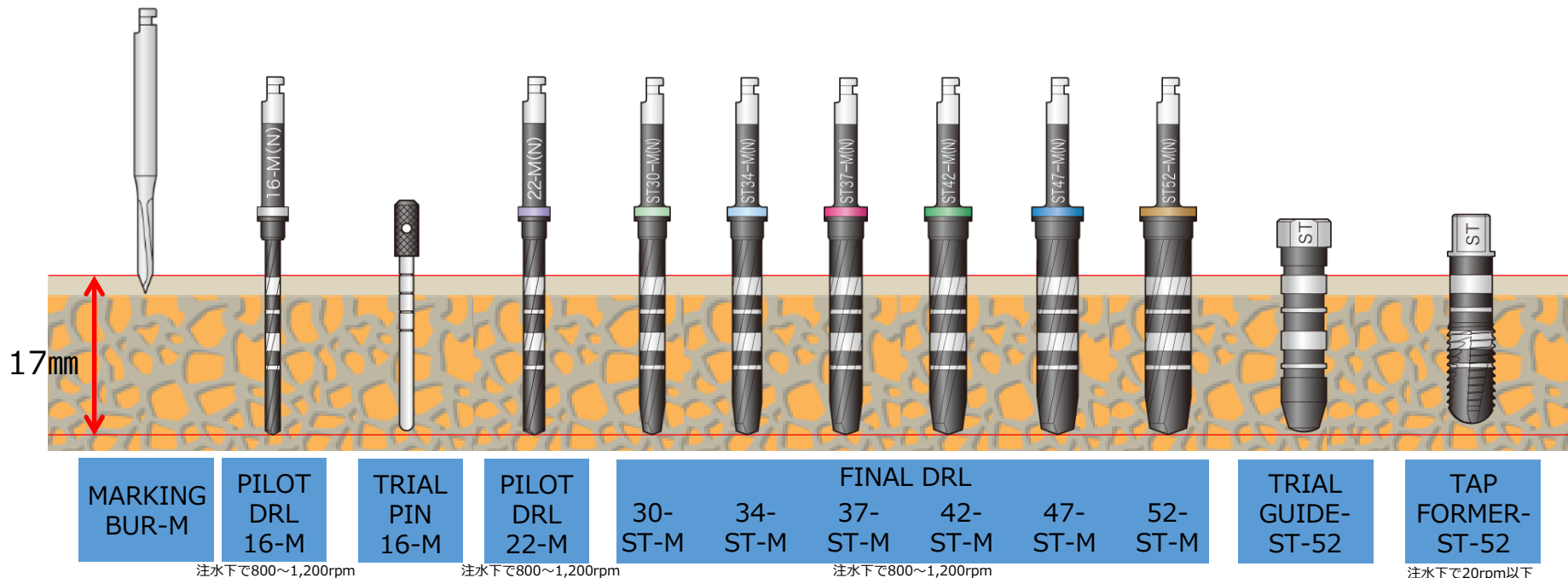


5. 直径5.2mmのインプラント体埋入時は、通常の骨質でも必ずタップフォーマーを使用してください。

埋入径
 $\phi 5.2$

骨内長
16mm

形状
ST

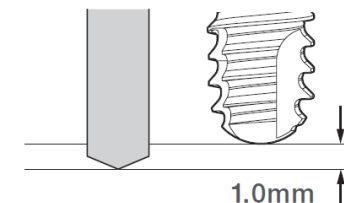


- ・誤飲防止のため、縫合糸を孔に通してください。
- ・TAP FORMER-STは、形成窩に対して垂直になるように使用してください。
- ・タップ形成の際、骨質が硬い場合は2~3回戻し、再度タップ形成を行ってください。

注意

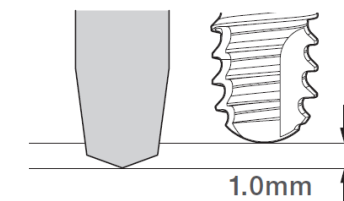
1. 消耗したドリルは、発熱や不正確な窩洞形成の原因になりますので使用しないでください。

2. パイロットドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



3. 手術中の誤飲を防止するために、市販の誤飲防止用チューブや縫合糸をトライアルピン頭部の孔に通して使用してください。デンタルX線撮影による確認を推奨します。

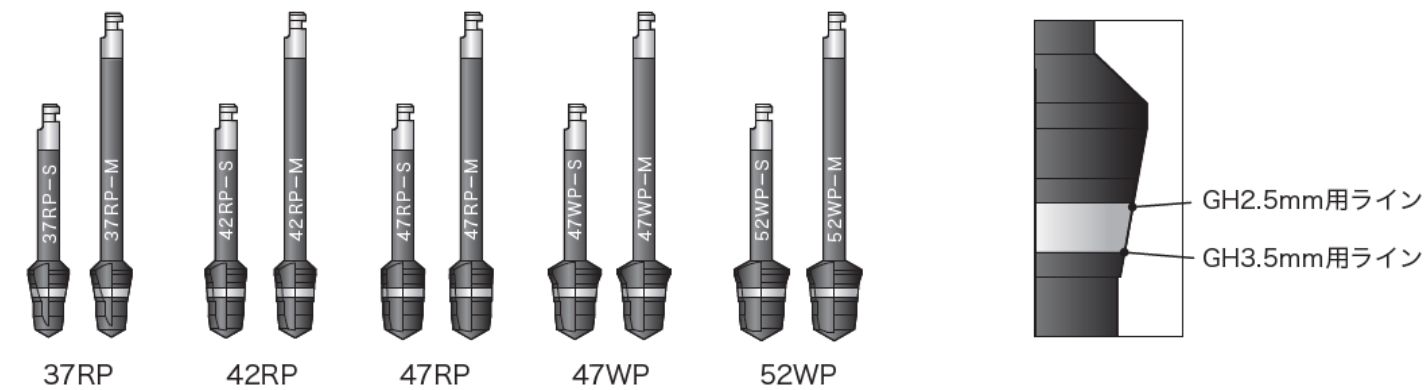
4. ファイナルドリルの刃長は、インプラント体よりも1.0mm長く設定されています。



5. 直径5.2mmのインプラント体埋入時は、通常の骨質でも必ずタップフォーマーを使用してください。

■ TLインプラントの深度調整を行う場合

傾斜骨にカラー部が干渉する場合など、TLインプラントが適切な埋入ポジションまで埋入困難な場合には、プロファイルドリルを用いて干渉する骨を形成し、深度調整を行うことが可能です。

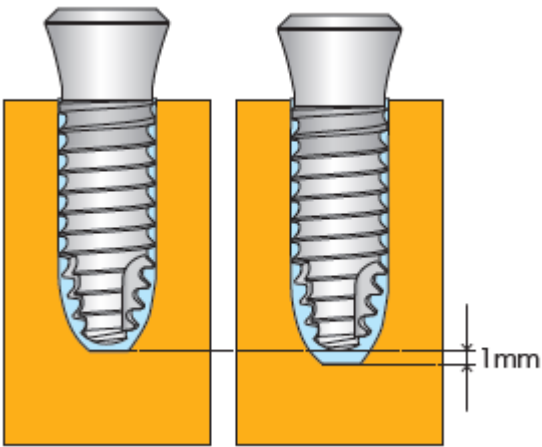


インプラント体のサイズおよび対応するプラットフォームにより、使用するドリルを選択してください。埋入予定のインプラント体のカラー部高さ(GH) に応じたドリリングラインまで形成を行います。ドリリングの際は、回転数800~1200rpmで十分な注水下で行ってください。適切なドリリングラインを選択することで、規定の埋入ポジションより約1mm 深めの埋入が可能になります。
※インプラント体の埋入窩を1mm深く形成することが推奨されます（右図の注意 3. 参照）。



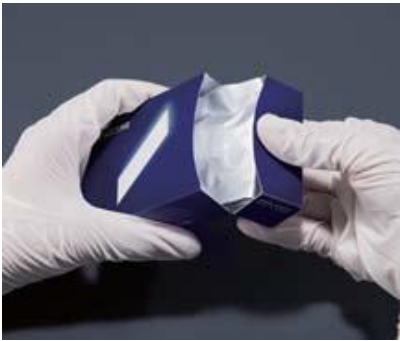
注意

1. ドリリングラインの選択を適切に行ってください。
不適當なドリリングラインを選択すると、十分な深度調整効果が得られない、あるいは想定以上に深く埋入される恐れがあります。
2. 規定の埋入ポジションに対し、1mm 以上の深度調整を行う際には骨表面のトリムを併用することが推奨されます。
3. カラー部の深度調整の事前準備として、ファイナルドリルであらかじめ埋入窩を1mm 深く形成することが推奨されます。



■BLインプラントの埋入（マイクロモーターによる埋入手順）

1. 外箱からアルミバッグを取り出します。 2. 容器を清潔域に取り出します。 3. 容器の蓋を外します。

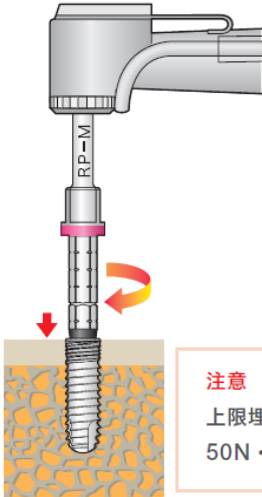
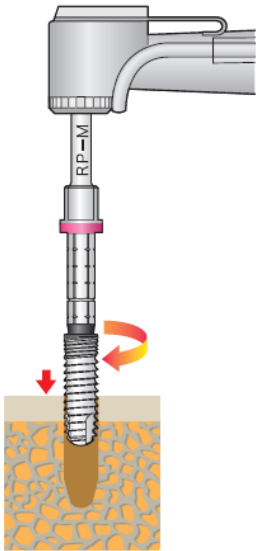


【マイクロモーターによる埋入手順】

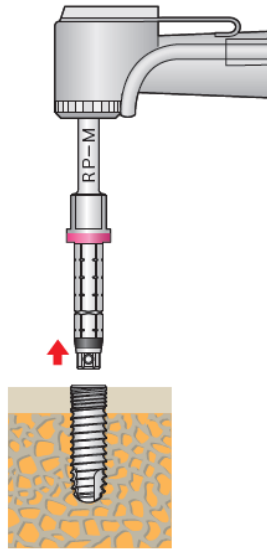
1. マイクロモーターに装着したインプラントドライバーCHをインプラント体に装着し、インプラント体をケースから取り出します。
2. マイクロモーターを用いてインプラント床にインプラント体の埋入を開始します。
3. インプラント体を20rpm以下の回転数で正回転させて最終位置まで埋入します。
※必要であれば、トルクレンチに変更し、埋入します。
インプラントドライバーCHを取り外します。



インプラント
ドライバー CH

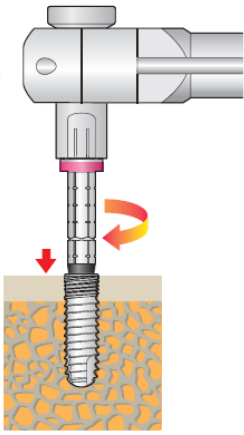
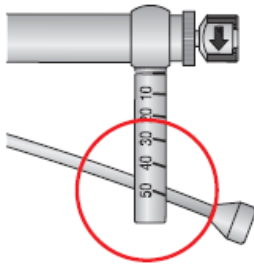


注意
上限埋入トルク
50N・cm



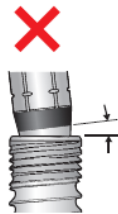
参考 最終トルク調整、締結

モーターで目的の埋入深度までインプラント体が埋入できない場合は、50N・cm以下で、FDアダプタとトルクレンチを使用して、適正位置まで埋入します。



注意

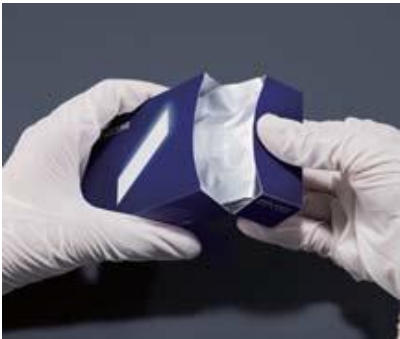
1. インプラントドライバーCHをインプラント体に装着する際は、奥までまっすぐに挿入してください。



2. FDアダプタは繰り返し使用によって、把持力が低下する場合があります。使用前にインプラントドライバーと組み合わせて、把持力が保たれているか確認してください（トルクレンチによる埋入時のみ）。
3. 埋入トルクが50N・cmを超える場合、インプラント体を一度抜去し、タップフォーマーでタップ形成を行った後、再度インプラント体を埋入してください。
4. インプラント体植立後は適切な免荷期間を確保してください（下顎では3か月以上、上顎では6か月以上）。

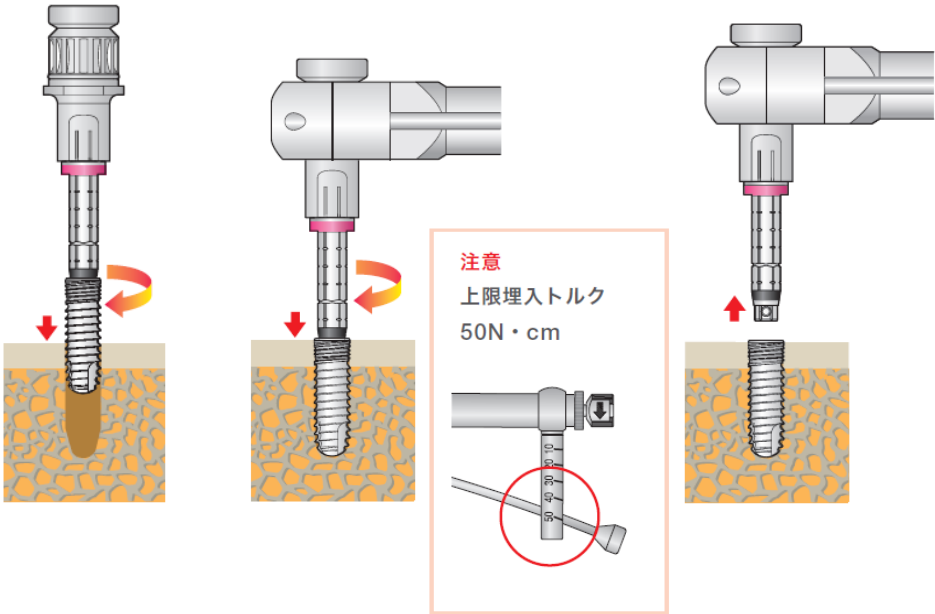
■BLインプラントの埋入（マニュアルによる埋入手順）

1. 外箱からアルミバッグを取り出します。
2. 容器を清潔域に取り出します。
3. 容器の蓋を外します。



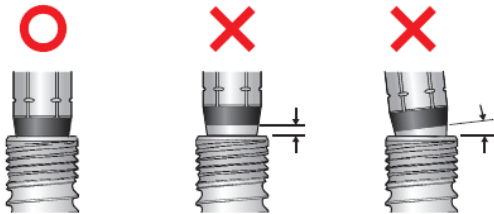
【マニュアルによる埋入手順】

1. FD アダプタを用いてインプラントドライバーCHをインプラント体に装着し、インプラント体をケースから取り出します。
2. FD アダプタを用いてインプラント床にインプラント体の埋入を開始します。
3. インプラント体を正回転させて最終位置まで埋入します。
インプラントドライバーCHを取り外します。



注意

1. インプラントドライバーCH をインプラント体に装着する際は、奥までまっすぐに挿入してください。



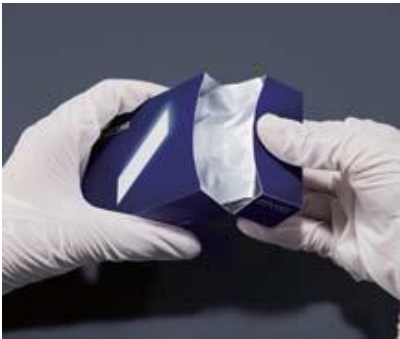
2. FD アダプタは繰り返し使用によって、把持力が低下する場合があります。使用前にインプラントドライバーと組み合わせて、把持力が保たれているか確認してください（トルクレンチによる埋入時のみ）。

3. 埋入トルクが50N・cm を超える場合、インプラント体を一度抜去し、タップフォーマーでタップ形成を行った後、再度インプラント体を埋入してください。

4. インプラント体植立後は適切な免荷期間を確保してください（下顎では3ヵ月以上、上顎では6ヵ月以上）。

■TLインプラントの埋入（マイクロモーターによる埋入手順）

1. 外箱からアルミバッグを取り出します。 2. 容器を清潔域に取り出します。 3. 容器の蓋を外し、スライドします。

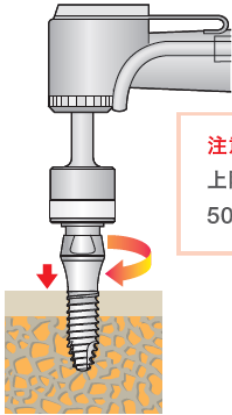
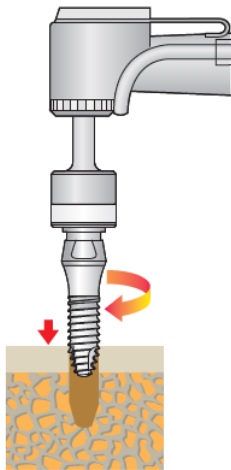


【マイクロモーターによる埋入手順】

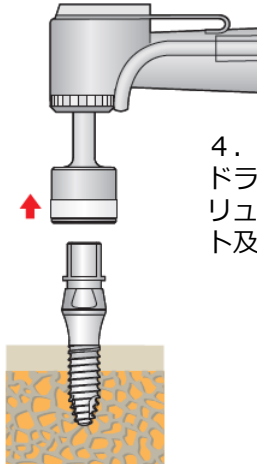
1. マイクロモーターに装着したドライバーホルダーCをインプラント体に装着し、インプラント体をケースから取り出します。
2. マイクロモーターを用いてインプラント床にインプラント体の埋入を開始します。
3. インプラント体を20rpm以下の回転数で正回転させて最終位置まで埋入します。
※必要であれば、トルクレンチに変更し、埋入します。
ドライバーホルダーCを取り外します。



ドライバーホルダーC



注意
上限埋入トルク
50N・cm



4. F-DA ホルダー及びヘキサロビュラドライバーを用いてマウント固定用のスクリューをゆるめ、インプラント体からマウント及びスクリューを除去します。



F-DA ホルダー

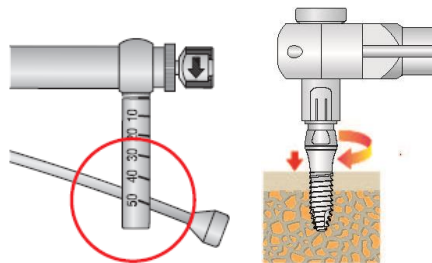
注意

1. 硬い骨質の場合、マウントがインプラント体に噛みこんでしまう恐れがあるため、埋入途中でマウントを除去し、FTL インプラントドライバーを用いて埋入してください。
2. 埋入トルクが50N・cm を超える場合、インプラント体を一度抜去し、タップフォーマーでタップ形成を行った後、再度インプラント体を埋入してください。
3. マウントからスクリューを除去した後、マウントがインプラント体から外れにくい場合は、以下の手法にてマウントを取り外すことができます。
- ① F-DA ホルダーをマウントに装着し、インプラント体が回転しないように、注意しながら軽く逆回転させるとマウントを取り外すことができます。
- ②④でも取り外せなかった場合は、取り外したスクリューを再びマウントにヘキサロビュラドライバーを用いて装着してください。ヘキサロビュラドライバーでスクリューを固定した状態でF-DA ホルダーを用いて、インプラント体が回転しないように注意しながら軽く逆方向に回転させます。再びスクリューを除去し、マウントを取り外してください。
4. インプラント体植立後は適切な免荷期間を確保してください（下顎では3か月以上、上顎では6か月以上）。



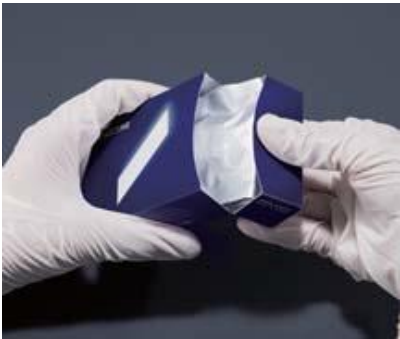
参考 最終トルク調整、締結

モーターで目的の埋入深度までインプラント体が埋入できない場合は、50N・cm 以下で、FD アダプタとトルクレンチを使用して、適正位置まで埋入します。



■TLインプラントの埋入（マニュアルによる埋入手順）

1. 外箱からアルミバッグを取り出します。 2. 容器を清潔域に取り出します。 3. 容器の蓋を外し、スライドします。

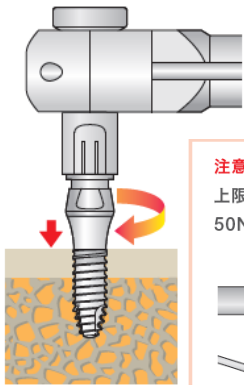
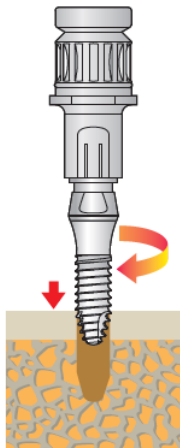


【マニュアルによる埋入手順】

1. インプラント体にFDアダプタを装着し、インプラント体をケースから取り出します。
2. FDアダプタを用いてインプラント床にインプラント体の埋入を開始します。
3. インプラント体を正回転させて最終位置まで埋入します。
FDアダプタを取り外します。

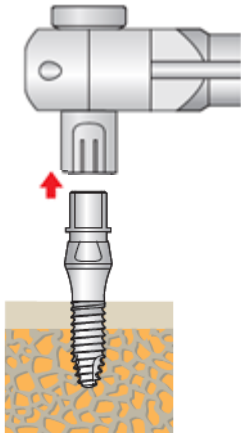
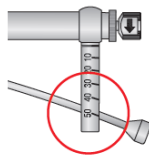


FDアダプタ

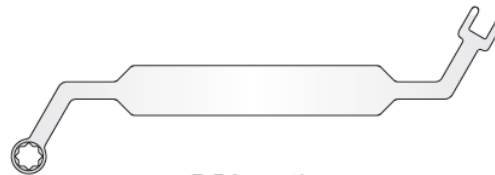


注意

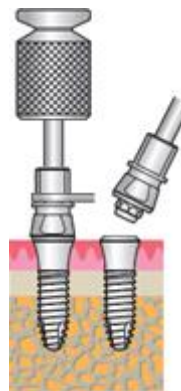
上限埋入トルク
50N・cm



4. F-DA ホルダー及びヘキサロビューラドライバーを用いてマウント固定用のスクリューをゆるめ、インプラント体からマウント及びスクリューを除去します。

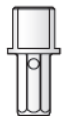


F-DA ホルダー



注意

1. 硬い骨質の場合、マウントがインプラント体に噛みこんでしまう恐れがあるため、埋入途中でマウントを除去し、FTL インプラントドライバーを用いて埋入してください。
2. 埋入トルクが50N・cm を超える場合、インプラント体を一度抜去し、タップフォーマーでタップ形成を行った後、再度インプラント体を埋入してください。
3. マウントからスクリューを除去した後、マウントがインプラント体から外れにくい場合は、以下の手法にてマウントを取り外すことができます。
- ① F-DA ホルダーをマウントに装着し、インプラント体が回転しないように、注意しながら軽く逆回転させるとマウントを取り外すことができます。
- ②④でも取り外せなかった場合は、取り外したスクリューを再びマウントにヘキサロビューラドライバーを用いて装着してください。ヘキサロビューラドライバーでスクリューを固定した状態でF-DA ホルダーを用いて、インプラント体が回転しないように注意しながら軽く逆方向に回転させます。再びスクリューを除去し、マウントを取り外してください。
4. インプラント体植立後は適切な免荷期間を確保してください（下顎では3か月以上、上顎では6か月以上）。



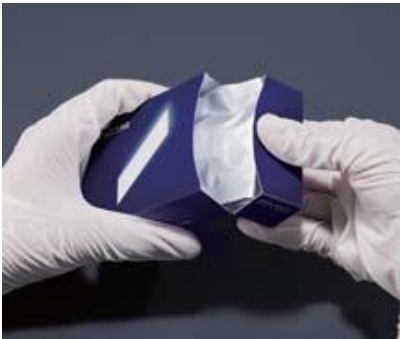
参考

埋入時に隣在歯等が障害となった場合、あるいは部位により高径が不足となった場合にドライバーエクステンダーを装着して使用します。



■ 1Pインプラントの埋入

1. 外箱からアルミバッグを取り出します。
2. 容器を清潔域に取り出します。
3. 容器の蓋を外します。

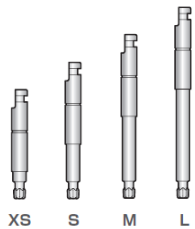


【埋入手順】

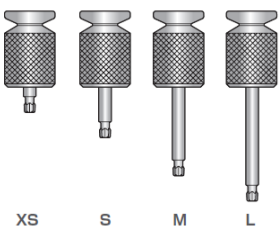
1. ヘキサロビューラドライバーCH、またはヘキサロビューラドライバーSHでインプラント体を把持し、容器からインプラントを取り出し口腔内に運び埋入します。
インプラント体把持部が見えにくい場合は、見える位置まで容器をスライドさせてください。



ヘキサロビューラドライバー CH

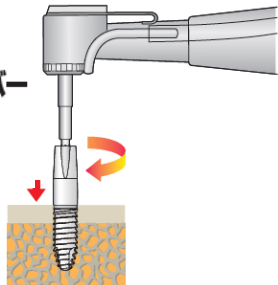


ヘキサロビューラドライバー SH



2. ヘキサロビューラドライバーを回転させインプラント体を植立します。インプラント体の埋入は20rpm以下の回転数で行います。必要に応じて、トルク値を徐々に上げて埋入します。（上限トルク値30N・cm）

ヘキサロビューラドライバー
使用時の上限トルク値
30N・cm



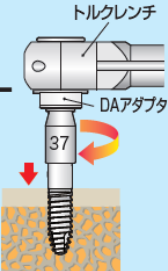
3. トルク値が30N・cm を超える場合、1P インプラントドライバーに切り替えます。インプラント体の埋入は20rpm以下で行います。必要に応じ、トルク値を徐々に上げて埋入します。（上限トルク値 50N・cm）

徒手的に埋入 トルク値30N・cmを超える場合

1P インプラントドライバー

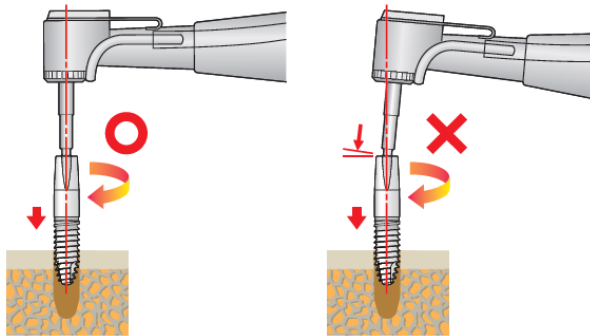


1P インプラントドライバー
使用時の上限トルク値
50N・cm



注意

- XS ドライバー使用時はスライドさせてから取り付けてください。ヘキサロビューラドライバーCH のXS 使用時は、容器をスライドさせてから取り付けてください。
- ヘキサロビューラドライバー取り付け時の注意点
 - ヘキサロビューラドライバーでインプラント体を把持する際は、対合するヘキサロビューラ穴の角の位置を合わせて挿入してください。
 - ヘキサロビューラドライバーは、まっすぐ奥まで挿入し、しっかり固定されていることを確認してください。
 - インプラント体ドライバーの中心軸がインプラント体と同軸になっている事を確認し、曲げ荷重を与えないようにしてください。



- インプラント体の落下に注意してください。
 - 落としたり、唾液などで污染させたりしたインプラント体は、感染の恐れがあるため絶対に使用せず、廃棄してください。
- 埋入トルクが50N・cm を超える場合、インプラント体を一度抜去し、タップフォーマーでタップ形成を行った後、再度インプラント体を埋入してください。
 - インプラント体植立後は適切な免荷期間を確保してください（下顎では3か月以上、上顎では6か月以上）。

本術式チャートに記載されている製品は、下記の医療機器承認／届出番号を取得しています。

販売名	分類	一般的名称	承認 / 届出番号	クラス分類
FINESIA BL フィクスチャー ファイナフィックス	高度管理医療機器	歯科用インプラントフィクスチャ	22800BZX00034000	Ⅲ
FINESIA BL フィクスチャー ファイナタイト	高度管理医療機器	歯科用インプラントフィクスチャ	22800BZX00035000	Ⅲ
FINESIA TL フィクスチャー ファイナフィックス	高度管理医療機器	歯科用インプラントフィクスチャ	22800BZX00037000	Ⅲ
FINESIA TL フィクスチャー ファイナタイト	高度管理医療機器	歯科用インプラントフィクスチャ	22800BZX00038000	Ⅲ
FINESIA 1P フィクスチャー ファイナフィックス	高度管理医療機器	歯科用骨内インプラント材	22700BZX00253000	Ⅲ
FINESIA 1P フィクスチャー ファイナタイト	高度管理医療機器	歯科用骨内インプラント材	22700BZX00270000	Ⅲ
FINESIA インプラント用手術器具	一般医療機器	歯科用インプラント手術器具	27B1X00139101122	I
歯科用トルクレンチ	一般医療機器	手術用レンチ	27B1X00139108103	I

製造販売元：京セラ株式会社



京セラ株式会社

メディカル事業部 <https://www.kyocera.co.jp/prdct/medical/index.html>

本 社 京都市伏見区竹田烏羽殿町6番地 〒612-8501

東京事業所 東京都品川区東品川3丁目32-42 1・Sビル 〒140-8810
Tel:03-5782-7018 Fax:03-5782-8518

札幌営業所 札幌市中央区北1条西3丁目3(札幌MNビル10F) 〒060-0001
Tel:011-555-3288 Fax:011-281-6525

名古屋営業所 名古屋市東区葵3丁目15-31(住友生命千種ニュータービル6F) 〒461-0004
Tel:052-930-1480 Fax:052-938-1388

大阪営業所 大阪市淀川区宮島3丁目3-31(上村ニッセイビル9F) 〒532-0003
Tel:06-7178-1898 Fax:06-6350-8157

岡山営業所 岡山市北区豊后町10-16(あいおいニッセイ同和損保岡山ビル4F) 〒700-0826
Tel:086-803-3625 Fax:086-225-2289

九州営業所 福岡市博多区博多駅東2丁目10-35(博多プライムイースト7F) 〒812-0013
Tel:092-452-8148 Fax:092-452-8177



www.finesia.world

「FINESIA」は京セラ株式会社の登録商標です。

当マニュアルに記載の情報は2018年8月時点のものです。
当マニュアルについては、謝辞で複製、転載することを禁じます。

© 2018 KYOCERA Corporation

D-122-1